



吉子川



令和6年11月21日(水)
学校だよりNO.48
中島村立吉子川小学校
発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
のあやめの花に
住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの十か条
(11月)

できることからお手伝い「ありがとう。」
と言われる喜び

◇ 実りの秋 ～親子読書～ ◇

親子読書への取り組み、ありがとうございました。

「子どもの感想」を書くコーナーには、おうちの方と本を読むことができた嬉しさと、本を通して、おうちの方と心の交流やスキンシップを図ることができた喜びを体感した、子どもたちの素直な言葉が綴られていました。同様に、「おうちの方の感想」を書くコーナーにも、親子読書を通して得たかけがえのない時間の尊さ、我が子の成長を味わうことができた喜び、本の素晴らしさに感動した言葉が数多く記入されていました。

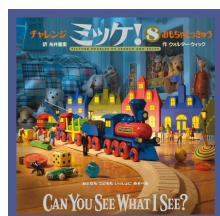
全員分を紹介したいところですが、紙面の都合上、6名の皆様の感想を匿名で紹介させていただきます。なお、各学年3人分の読書カードを中央廊下掲示板に掲示しますので、来週の個別懇談で来校の際は、ぜひご覧になってください。

おうちの方の感想



「ミッケおもちゃとつきゅう」ウォルター・ウィック

小学校に入ってから本を読み聞かせる機会がなくなっていました。この親子読書の取り組みにより一緒に読んで本を読む時間ができて、とても良かったです。本を通しての会話も弾み、考えたり想像したりと、親子で楽しく読書ができました。今後も時間があれば読書を通して一緒に時間を楽しみたいと思います。



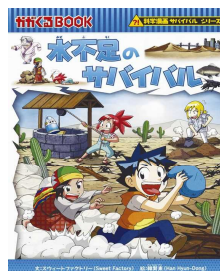
「Lettersレターズ」エ藤ノリコ

一冊の中にたくさんの手紙があり、どれも相手のことを考え、思いやりながら描かれている優しく楽しい内容でした。携帯やパソコンでのやりとりが当たり前になっている今、相手の顔を思い浮かべながらじっくりと気持ちを文字に記す生活がとても貴重な時間であると感じて考えさせられました。手紙を受け取ったら、素敵なプレゼントをもらったような気持ちになりますね。



「水不足のサバイル」スウィートファクトリー

大きくなるにつれて一緒に本を読むということがなくなってきたので、親子読書を通して一緒に同じ本を読んで、一緒に感想を話せる時間がとても大切な時間になりました。



「でっかいでっかいモヤモヤぶくろ」バージニアアイアンサイド

大人だけでなく子どものモヤモヤも、いっぱいあるんだなあ、絵本を通して分かることができました。モヤモヤをためないで出すことができる環境をいっぱいつくってあげたいと思いました。



「クリスマスのおばけ」せなけいこ

絵が張り紙でできていてとても温かみのある絵本で私も大好きな本です。先日、せなけいこさんが お亡くなりになられたということで、とてもショックを受けました。本の隅々まで読んでみると、どんなふう読み聞かせしたらよいか、この時期の子どもたちの感性などについても書かれており、せなけいこさんの優しさ、ユーモアを改めて感じました。小学生になりもう読まないかな?とと思っていましたが、味のある作品は、いつまでもいいもの、大切にしたいと思いました。



「こんなときってなんていう?」たかてらかよ

毎年の親子読書を姉妹での読み聞かせの時間にもしています。今年で3年目。下の妹も3歳間近かになり、言葉もだいぶ覚えてきている中、今回は「挨拶」を身に付ける絵本を読んでもらいました。場面ごとに、「こんな時何て言う?」と聞きながら、挨拶がちゃんと言えているか確認してくれていました。小さな先生が一生懸命教えている、ほほえましい姿でした。

